

ICT機器を活用し、お互いに見合い教え合いながら技を習得する

二本松北小学校 大槻 瑞也

I 単元構成の工夫

マット運動は、回転系や巧技系などのいろいろな技に挑戦し、自己の課題を達成する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。技を習得するためには、動きのポイントをおさえ、運動の仕組みを理解することが重要となる。器械運動は自分の動きが見えないため、児童同士で、お互いの動きを見合い、教え合う関係を築けることが有効な手段となる。その補助として、タブレットなどのICT機器を有効に活用する場面を設け、技の習得を図りたい。

児童の実態

本学級の児童は、体育の学習が楽しいと答えてる児童が34名中31名だが、領域で見ると「器械運動」に関しては、楽しいと答えた児童は3分の1にとどまる。これまでの学習でマット運動に苦手意識をもっていたり、体格の個人差・体幹の弱さ等で、自分の体を支えることが難しかったりする様子が見られる。第5学年時では、回転系の前転・後転などの技を、安定して行うことができない児童が多く見られ、発展技に挑戦できたのは、数名の児童に限られた。

単元を通して育成したい子どもの姿

タブレットなどのICT機器を活用し、マット運動の動きのポイントをおさえ、お互いの動きを見合い、教え合いながら技を習得しようとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 本単元では、マット運動の技能の習得に力を入れて単元構成をした。児童の技能に合わせ、徐々にレベルアップを図り、意欲的に活動できるようになった。また、タブレットを毎時間使い、自分たちで課題を見出し、改善を図ることができた。
- 学習カードをタブレットで記入し活用しようとしたが、思ったより時間がかかり、運動量の確保ができないと判断し手書きで短冊に書くことにした。児童の実態に合わせ、デジタルとアナログそれぞれの良さを生かしながらの学習展開を考えていきたい。

学習計画（総時数 6時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	運動の特性を知り、自己の能力に応じた技の組み合わせ方を考えることができる。 （前転・後転・倒立回転・倒立グループ分け）	自己の能力に応じた課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を考えようとしている。 （主）（思）
2	考える 習得する 対話する	それぞれのグループに応じた基本技のポイントを確認し、お互いの動きをチェックすることができる。	回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。（知・技）
3	考える 習得する 対話する	基本技を安定して行うことができる。基本技を生かして発展技に取り組むことができる。	基本的な技を安定して行いその発展技を行うことができる。（知・技）
4		（本時） 前時までの学習を生かし、アドバイスして互いに技を高め合うことができる。	自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 （主）（思）
5	考える 習得する 対話する	選んだ技を組み合わせることで連続技に挑戦することができる。	習得した技を繰り返したり組み合わせたりすることができる（知・技）
6	振り返る	学んだことを生かして発表会を開き、お互いの技のできばえを称賛することができる。	運動に積極的に取り組み、仲間の取り組みを認め合うことができる。 （主）（技）

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 自分が気をつける動きのポイントを、ペアやグループで見合い、アドバイスし合いながら高め合うことができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える (1) これまでの学習をふり返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。</p> <p>自分が気をつける動きのポイントをおさえて演技しよう！</p> <p>(3) 各自気をつけるポイントの確認</p>	<p>2 基本技の確認をする</p> <p>基本技の確認の時、児童の動きがスムーズでなかったため、動きのポイントを確認しながらやってみることにした。模範動画の活用の仕方確認した。</p> <p>3 ペア・グループ内での見合い C：開脚前転でうまく立ってないんです。 T：動画を見て技のポイントが分かりましたか。 C：足を開くタイミングが早すぎるかも C：それから手の位置が離れている。 C：足は着地の直前でパッと開いたら。 T：それはいいね手の位置はどうする。 C：手は足の近くについてみよう。 C：飛び箱でまたぎこすように手についてみよう。 T：すごいね、これで技のポイントが分かったね。</p> <p>同質のグループ構成だったので、具体的な動きを確認するまでには至らなかった。技量の高い児童とのペアリングも考慮するべきであった。</p>	<p>2 基本技の確認をする</p> <p>模範動画再生用のパソコンを準備し、いつでも確認できるようにする。</p> <p>3 技量の高い友達の技を見せ、動きのポイントを考える。 T：〇〇さんの演技を見て、自分の演技の動画と比べて見ましょう。ここがすごいな、これなら自分もできそうと思うところを探してみましょう。</p> <p>グループの構成を考え直し、技量に差があるグループ構成にして、できる児童の演技を模範として、苦手な児童も技量を高めることができるようにする。</p> <p>学習カードに、改善点を記入させる。 T：学習カードに自分の動画を見ながらポイントをチェックして直したい所を見つけましょう。</p>
課題解決	<p>2 基本技の確認をする T：前転の動きを模範のビデオを見て技のポイントを確認しましょう。 C：まっすぐ回れないんだよね。 C：きれいにまわりたいな。</p> <p>3 ペア・グループ内での見合い (1) 模範動画を見て C：開脚前転の模範動画を見よう。 C：手の位置はどうかね。 C：どうしたら上手く回れるんだろう。(確認後自分達でチャレンジ) (2) 補助具を使って C：側方倒立回転が上手くいかない T：足の高さが足りないね。 C：どうやったら足があがりますか。 T：そうだね、ゴムを張ってそれに触れるように足を伸ばしてみたら C：やってみます。 T：友達に足の高さに手をだしてもらってそれに触るようにしてもいいね。</p>	<p>4 本時の学習を振り返る</p> <p>一人一人の振り返りを書くのに時間がかかり、全体で共有するまでには至らなかった。</p>	<p>4 短冊の書き方を工夫し、共有する。</p> <p>目標の達成度を記号で評価し、自分の気をつけるポイントを書き込む欄と次時の取り組みを記入する欄を作り、分かりやすく伝えられるようにする。</p> <p>グループでの取り組みを紹介する。 C：ぼくたちのグループはロンダートのコツをつかみました。大切なのは手の位置とひねるタイミングです。みなさんも挑戦してみてください。</p>
振り返り	<p>4 本時の学習を振り返る (1) めあてを達成できたか (2) 次時目指すポイントの確認(短冊に記入し黒板に貼る) (3) 全体での共有。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題 ○タブレットで撮影した動画を見ることは自分の動きを見て、ペアで話し合い、修正をして、繰り返し取り組むのにとっても有効であった。 ●ICT機器はあくまでも補助的な道具であり、体育科の授業においては運動量の確保が最優先なので、学習カードとの併用を考えた授業展開を行わなければならない。</p>	